



内科秘録

六

ヤ 9
954
6



門 9
號 954
卷 6

冊 四十
號 二 批
函 九 子



錄卷之六

錄

肺痿

痰飲

欬嗽

水戶 素軒本問故和



目錄

卷六目錄

二

目錄

急勞

傳屍

肉極

蓐勞

勞ハ別名多シト雖氏虚勞ヲ古名ト為ス金匱ニ載テ
 其治法ヲモ論セリ其因心勞房勞ヨリ生スルト諸
 書ニ説テアレ氏必然ト為スヘカラス遊學ノ書生
 或ハ店奉公人或ハ處女宮女ノ儕獨身ニテ勞ヲ患
 フル一頗ル多シ又心勞スル者ハ必ラス狂癪ノ二
 證ヲ發シテ未タ必ラスシモ勞ヲ發セス此病一種

ノ傳染毒ニシテ癰瘡疥癬瘟疫痢疾等ノ傳染スル
 ニ殊ナラス唯緩急ノ別アルノミ或ハ血脈ヲ引テ
 傳染シ或ハ親近スルニテ傳染スルノ二途アリ父
 子兄弟相傳染シ遂ニ舉家死亡シ一門ヲモ滅スル
 ニ至ル一アリ是血脈ヲ引クノ明徴ナリ夫婦ハ必
 ラス互ニ傳染シ或ハ妻勞ヲ患ヒ死シテ後再娶ス
 ルニ後妻モ亦傳屍ヲ患ル一三四人ニ及フ一有リ
 勞ヲ患ヒテ死シタル家へ養子ニナル者直ニ引移
 氏ハ勿論ニ三年ノ後ニ其家ヲ嗣テモ傳屍スル一
 有リ或ハ看病人及醫者鍼醫按摩ノ輩へモ傳染ス

ル一有り是親近スル者へ傳染スルノ確證ナリ又
 宮室器什衣服等へモ其毒浸淫シテ人ニ傳染スル
 一有り儒家醫者ノ塾及ヒ宮女ノ長局巨商ノ奉公
 人ノ部屋等ニ傳屍勞アリテ交代ニ人ノ多ク死ス
 ル一有り又勞ニテ死シタル跡へ僑居シテ勞ヲ患
 フル一有り又器什衣服等ヲ用ヒテ傳染セシモノハ
 枚擧ニ遑アラス尤モ奇事ト云フハ我舊里小川村
 村醫本立ト云モノ勞ヲ患ヒテ死セリ後二月餘ニ
 シテ隣村神職定海ノ勞ヲ療スルニ枕邊ニ置ク所
 ノ藥籠ハ即チ本立カ死スル片病室ニ置タル藥籠

ニ似タリ之ヲ問フニ果シテ本立カ遺物ヲ購ヒ得
 タリト云フ定海ノ病此器ヨリ傳染シタル理ヲ諭
 スニ家人大ニ驚キ遽ニ之ヲ骨董舗某ニ鬻ゲリ後
 三月餘ニシテ一村醫玄順虚勞ヲ患ヒテ予カ治ヲ
 請フ予其病室ニ入ルニ定海カ鬻ク所ノ藥籠又枕
 上ニ在リ之ヲ問フニ即チ某ニ得タリト云ヘリ器
 什ヨリ傳染スル一實ニ恐ルヘキ一ナリ傳染病ニ
 定マリタレ氏纔ニ觸レ須臾應接シタルニテハ傳
 染スル者ニモ非ス稀ニハ遽ニ傳染シテ急ニ發ス
 ル者アリ一女子勞ヲ以テ死シタル兄ノ新葬ヲ野

邊ニ送り家ニ歸ルニ及テ卒然トシテ惡寒發熱欬嗽盜汗等ノ諸證備ハリ五十日餘ニシテ死セシトアリ又一男子勞ヲ患ヒテ死セリ其弟十餘里ノ外ニ住シ訃告ヲ聞テ遽ニ往テ哭スルニ逗留中ニ傳屍ヲ發シ家ニ歸ルニ及テ三月餘ニシテ死セシト有リ

勞ハ小兒老人ニ尠ナク少壯ノ者ニ多シ廿歳ヨリ四十歳ノ間ノ病ナリ疝勞ハ小兒ニ多クアレ氏眞ノ勞瘵トハ自ラ殊ニシテ大抵ハ治スル者ナリ勞ハ書生店奉公人等ノ無妻ノ者モ之ヲ患フルト多ク

レハ房勞トモ定メ難シ心勞スル者ハ多クハ狂癩ヲ發シテ必ス勞ヲ患フル者ニ非ス年来勞ヲ療治スルト尤モ多クシテ枚舉スルニ遑アラス近クハ弘化四年丁未ノ春ヨリ嘉永元年戊申ノ秋ニ至テ予カ療治スル所ノモノ通計五十五人其内二十歳ヨリ四十歳ノ間ニテ死シタルモノ四十人四十歳ヨリ五十歳ノ間ニテ死シタルモノ十人五十歳ヨリ六十歳ノ間ニテ死シタルモノ三人十五歳以下ニテ死シタルモノ二人ナリ七八十歳ノ間ニ至テハ勞瘵ヲ患フルモノ無キヤウニ醫俗共ニ心得テ

居レ世ニ罷癯ト稱スルモノ格別ノ痛處ヲ覺ヘ
ス唯何時トナク飲食減少シ漸漸ニ虚羸シテ氣力
乏シクナリ少シク咳出テ、痰ヲ吐キ遂ニ虚勞ノ
狀ヲナシテ死スル者アリ盖シ老人ノ虚勞ナルヘ
シ老衰シタル人ハ元氣乏シク正邪分争ノ力モナ
キ故ニ勞ノ諸證ヲ備ヘサルナルヘシサレハ老衰
ニ至リテモ實ニ勞ノ無キニハアラス

傳屍勞ハ傳染毒ユヘ稟賦ノ強弱肥瘦ニモヨラス之
ヲ患フルナリ初テ自發スル者ハ發セヌ前日ヨリ
催ノ有ルモノナリ資稟小心ニシテ人ト争ハス何
ニ至リテモ實ニ勞ノ無キニハアラス

事モ人後ニ落チ常ニ好人ト稱セラレ身體瘦テ色
白ク手足ノ絡青ク顯ハレ腹ノ肉少ナク筋ハリテ
適疾行勞カスレハ虚里ノ悸動高ク氣息促迫シ或
ハ痰ニ紅線ヲ引キ或ハ風邪ニ感シ熱解シテ後モ
長ク盗汗ノ出ルモノ必ラス後ニ勞ヲ發スル者ナ
リ
年三十歳ノ後飲食コトニ頭汗流ル、カ如クニ出ル
モノアリ又醃魚及鹽カラキ物ヲ食スレハ寒中ト
雖氏頭汗出ルモノ後ニ多クハ勞ヲ發スル者ナリ
又少シノ疾ニテモ必ス盗汗ノ出ル者アリ是又後

ニ勞ヲ患ル者ナリ
 盜汗・咳嗽・潮熱・咯血等ノ備ハルニ及テハ素人モ勞ナル
 ルヲ知ルヘシ最初ニテ飲食起居常ノ如クナル
 片ハ初學ノ者ニハ決シ難シ未病ノ時ニ熟察シテ
 大病ナルヲ知リ餘カラ遺サス療治スルヲ專用
 トス先感冒ノ候モナク咳嗽頻ニ出テ、止マス起
 居ニ氣息ノキレルモノ若クハ外ニ苦シム所ナク
 漸次ニ羸瘦シ唯起居スル度ニ氣息ノキレルモノ
 若クハ心思悒鬱トシテ樂マス漸次ニ羸瘦スルモ
 ノ若クハ虚里ノ動氣衣ノ外ヨリモ見ユル程ニ強

ク起居ニ息キレアリテ坂ヲ登リカヌルモノ若ク
 ハ腹ニ癥癖アリテ氣急スルモノ若クハ婦人經閉
 シテ少腹ニ塊ヲ結ヒ漸漸ニ腹滿シ面色痿黄ニナ
 ルモノ若クハ咯血吐血スルモノ皆勞ヲ發スルノ
 嚙矢ナリ馨欬ニ數點ノ凝血ヲ吐クモノ止サル片
 ハ數年ヲ經テ必ラス勞ヲ發ス俄ニ吐血スル一
 時二三合或ハ五六合數出テ止マサル者ハ必ス勞
 ヲ發ス
 内因ノ病ハ何病ニヨラス病ノ在處ヲ知ルヲ肝要ト
 ス診法ニ熟スレハ諸臟ノ病モ外候ニテ知レルモ

ノナリ勞瘵ハ即チ肺病ナリ十一二椎ノ側肺ノ近
クヘ流注ヲ發スルモノ必ラス潮熱欬盜汗等ノ
諸證ヲ起シ打撲ニテ肺ヲ損傷スルモノ或ハ附骨
疽ヲ胸肋ノ間ニ發スル者ハ皆其毒肺臟ヲ犯シ又
勞瘵ノ諸證ヲ起スモノナリ此等ニ因テ勞ノ肺病
ナルコトヲ證スヘシ第一勞ニ氣急ノアルハ肺ナリ
欬嗽モ氣道及肺ヨリ出ルナリ心臟ノ鼓動スルハ
肺ノ縮張ニ本ツクモノナレハ今勞ニテ呼吸促迫
スレハ心ノ動悸高ブリ脈モ數ニナルコト自然ノ勢
ナリ解剖ノ時肺臟ヲ熟視スルニ薄キ膜ニテ出来

タルモノ故勞ニテ胸痛スルモノハ細キ絲ノ如キ
モノ引ツリテ痛ムヤウニ覺ユルナリ
勞ヲ患ヒテ欬嗽ノ多ク出ルモノ卒然トシテ虚里ノ
動ノ右ヘ移リ左ハ寂然トシテ無聲ニナルコトアリ
頗ル奇事トス唯勞ノミナラス喘欬ニモ有ルコトナ
リ遂ニ左ニ復スルコト能ハス或ハ自ラ左ヘ復スル
コト有リ門人薄井玄珠欬嗽潮熱等ヲ患ルニ一日卒
ニ虚里ノ動右ニ遷リ胸脇苦滿ヲ覺ユ又腹脹滿シ
盜汗氣急脈數等ノ諸證備ハリ既ニ死地ニ墜タル
ヤウニ見ヘタレ氏緩痰湯ヲ服シ餘鼈ヲ食用シテ全

治セリ虚里ノ動右胸ニ移ル_一和漢ノ醫籍ニ其説
 ナシ愚按スルニ欬嗽ニテ豎膈膜破裂シテ孔ヲ成
 シ亦欬嗽ノ勢ニテ心臟此孔中へ轉入シタル者ナ
 ルヘシ譬ハ瀛ノ籬面ニ係ルモノ大風ニテ籬背へ
 移轉スルニ同シ

勞ハ傳染毒ナレ氏瘟疫痢疾癩瘡疥癬ノ如ク速ニ傳
 染スルモノニ非ス假令傳染スルモ其毒内ニ伏シ
 テ速ニ發セス按摩鍼醫等ハ日夜病床ニ親炙スル
 ヲヘ傳染スル者亦尠カラス醫者ノ診察スル間ハ
 須臾ノ_一ユヘ決シテ傳染スル_一ナシ

或人ノ曰ク勞ハ必死ニシテ輕證ニテモ生路ナシ勞
 ノ諸證ヲ備ヘタルモノ、愈ルハ似テ非ナル者ナ
 リト斷リテヨリ以來醫俗俱ニ最初ヨリ必死ニ決
 定シテ療治スルハ無益ノヤウニ成タルハ大ナル
 心得違ナリ何病ニモ輕重アリテ難病モ輕證ナレ
 ハ愈ル_一アリ勞ニモ輕證ニテ愈タル者尠カラス
 今斯ニ_一ニテ舉テ左證トセレ小川村中山芳兵衛
 其兄ノ勞ヲ傳染シ盜汗咳嗽潮熱氣急羸瘦等盡ク
 備ハリタレ氏余カ療治ニテ治シ妻ヲ娶リ子モ多
 ク生シ病愈テ後既ニ十四年今猶壯健ナリ門人兼

平道敬曾テ家嚴ノ塾ニ在ル時勞瘵ノ者寄居シテ
 療治ヲ請フ道敬之カ為ニ日ニ四花ノ灸ヲ炷ヘ寢
 食マテモ介抱セシ故カ卒ニ吐血シテ勞瘵ニナリ
 幾ト危篤ニ至リ駕籠ニテ歸郷セリ緩痰湯ヲ服ス
 ルト年餘ニシテ全愈ス今猶妻子モアリテ强健ナ
 リ小川村近江屋惣兵衛虚勞ヲ患ヒ諸惡證盡ク備
 リ脱疽ニ變シテ全愈ス同藩石川某虚勞ヲ患ヒ諸
 證盡ク備ハリタレ氏緩痰湯ヲ與ヘテ全癒ス泉街
 藤屋安三郎ノ妻其夫勞ヲ患ヒ死シテ後咳嗽潮熱
 等備ハリテ即チ傳屍勞ナリ余モ初メ療治シタレ

氏藥驗ナク家嚴ノ療治ニテ全愈ス谷中村松本某
 同藩丹羽某等皆勞ヲ患ヒタレ氏予カ療治ニテ全
 治セリサレハ愈ルトノ有モノト心得テ療治ヲ盡
 スヲ仁術ト為スヘシ
 勞ハ療治ヲ加ヘテ一旦全快ニナリ出勤シテモ微欬
 或ハ氣急或ハ數脈ナトノ中ニテ何カ一證殘リテ
 アルモノナリ是カ大病ノ徵ナリ世人少ク愈ルハ
 ハ全快ノ心ニナリ藥モ止メ養生モ惰ルユヘ全愈
 セサルナリ少壯ニテ妻ノ無キモノハ死スル迄モ
 少愈シテ二三年或ハ四五年モ生キ存ラヘルモノ

アリ新婚ノ後ニ發スルモノハ速ニ死スル者ナリ
多房ニテ疾ヲ促スモノト見ヘタリ

癰癧流注痔漏附骨疽ノ四病久シク愈スシテ身體疲

勞スル寸ハ勞瘵ニ變シテ死スル者アリ愚案スル

ニ是ハ本病ノ勞ニ變スルニハ非ス本病ニテ氣血

不足ニナリ遂ニ勞狀ヲ成スモノナルヘシ故ニ本

病ヲ療シテ全快スル片ハ勞狀モ亦從テ治スルナ

リ

婦人産後ヨリ勞ニナル者アリ名ケテ蓐勞ト云フ是

ハ素ヨリ勞ノ萌ノアルモノ産ニサワハレテ早ク

發シタルニテ産後ノ勞ニナリタルニハ非ス

勞ノ初發ハ咳嗽出テ、久シク止マス白沫ヲ吐キ或

ハ吹キレヌ程ノ粘痰ヲ吐ク者アリ痰中ニ血ヲ雜

ヘ或ハ血ノミ吐ク一モ有リ飲食ニ便常ニ異ナラ

ス近隣ナトヘハ歩行モナリ家業ヲモ強テ勤メ但

起居ニ氣急アリ力乏シクシテ萬事怠慢ニナリ人

ニ應接スル一ヲ嫌ニ神思悒鬱トシテ引タ、ス鍼

灸藥餌遺ル所ナク手ヲ盡セトモ病微シク減スル

ヲ覺ヘス又速ニ加フルヲ覺ヘス因循トシテ日ヲ

延クナリ故ニ世俗ニ因循病ト云フ日ヲ經テ病一

等加フル寸ハ巳時或ハ午後ヨリ微惡寒シテ日晡
ニ至テ發熱シ寢ルキハ盜汗多ク出テ胸上領圍及
髮際ナド淋漓トシテ水ノ流ルカ如ク衣服モ濕
リテ汗臭クナリ胸脇引ツリ痛ミ虛里動悸強ク脈
細數ニナリ遺精夢泄モアリ稍ク飲食減少シ起テ
居ルトヨ太儀ニ思ヒ先ツ卧シ勝ニナルナリ熱ハ
隨分強ク出レ氏舌ハ胎ヲカケヌ者ナリ胎ノカ
カルモノモ有レ氏薄キ白胎ノミナリ陽氣ノ損耗
セシトユハ兔角寒カリテ火邊ヲ好ミ如此病長ク
ナリ虛勞ノ諸候ヲ見ハスニ及テハ自分モ勞ナル

一ヲ氣ニ掛ケ沉思及覆シテ愈氣ノ引タヌモノ
ナリ然レ氏人ニ勞ト呼ハル、一ヲ嫌ヒ吐血遺精
盜汗等アリテモ藏シテ云ハス又病一等加フル寸
ハ肉脫骨立シテ兩顴赤ク臙脂ニテ粧タルカ如シ
是ハ色ノ好キニハ非ス無根ノ虛陽上泛シテ致ス
所ナリ戴陽ト名ク又桃花蛙氏云フ虛候トナス腹
皮背ニ迫リ筋脈拘急シテ鞭ク臍下ハ塊ヲ成シ
テ殊ニ堅ク覺エルナリ或ハ心下ヨリ左右ノ脇下
一圓ニ鞭滿スルモアリ或ハ腹脹滿シテ鞭ク鼓脹
ノ如クナルモノ有リ元來勞ハ金匱ニモ裏急ト云ヒ

又少腹拘急ト云フ通り腹ノ瘦テ拘攣スルヲ定候
ハス脹滿スルハ變證ナリ故ニ高階家ニテ腹脹勞
ト名ク聲ヒツシリト嘔テ出テス咽喉刺痛シテ飲
食ハ勿論藥餌マテモ深テ難儀スルナリ後ニハ飲
食少シモ通りカ子ル様ニナルモノナリ世醫或ハ
咽喉結毒ヲ併病シタルヤウニ心得ルモノアリ笑
フヘキ一ナリ病又一等加フルニ及テハ咳嗽盜汗
等却テ止ミ熱強ク煩渴シテ冷水ヲ嗜ミ舌上黃胎
或ハ黑色ニ變スルモアリ極虛似實トハ是等ノ證
ヲ云フナリ腹中切痛シ或ハ下利或ハ浮腫ノ出ル

モアリ脈ハ愈細數ニナリ呼吸モ促迫シテ鼻扇ト
云テ小鼻動キ肩息ト云テ肩ニテ氣息ヲツクモノ
ナリ以上ノ諸證ヲ見ハスハ死ノ旦夕ニ迫リタル
ナリ死生ハ遲速ヲ診決シテ病家ヘモ告クヘシ死
生ノ遲速ヲ知ルノ法先ツ脈ノ細數ニシテカナク
呼吸ノ至極促迫スルハ最ハヤ元氣ノ盡キタルナ
リ又忽ニ精神恍惚トナリ鄭聲ナトモアリテ微煩
スルハ死期ノ近キト知ルヘシ然レ氏死生ヲ知ル
一尤難キ一ナレハ常ニ診法ヲ精究スヘシ
勞ハ難治ノ者ナレ氏緩病ユエ速ニハ死セス短キモ

ノモ一年長キモノハ二三年或ハ四五年ニ至テ死
 スルナリ一種急勞ト云フ者アリ卒ニ發テ速ニ死
 スルナリ初メ往来寒熱強クシテ疫ノ如ク舌上白
 胎或ハ黒色ニ變スルモアリ咳嗽頻ニ出テ多ク痰
 沫ヲ吐キ盜汗淋漓トシテ蒲團ヲモ透シ呼吸促迫
 鼻扇肩息或ハ吐血或ハ渴シ急ニ羸瘦シテ五六十
 日ノ間ニ死スル者アリ疫ニ疑似キヤウナレバ第
 一盜汗吐血等ノ確證モアリ飲食ハ存ノ外食スル
 一ノナルモノナリ此等ノ證ニテ疫ニ非サルヲ
 知ルヘシ

勞瘵ハ勞ノ總名熱ノ多クアルヲ骨蒸ト云ヒ又勞熱
 ト云フ咳ノ多ク出ルヲ勞咳ト云ヒ又勞嗽ト云フ
 音ノ啞シテ肺ノ萎ミタルヤウニ見ユルヲ肺痿ト
 云フ傍人ニ注易シテ遂ニ一門ヲ滅スルニ至ルヲ
 傳屍ト云フ殭屍伏連鬼疰無辜遁尸飛尸等ハ皆傳
 屍ノ別名ナリ又羸瘦ノ甚シキモノニハ瘦病ト名
 ク小兒ノ勞ヲ疳勞ト云フ
 金匱虛勞門ニ弦大ノ脈ヲ舉テ勞脈トスレ氏未タ必
 シモ然ラス香川太仲數脈ヲ勞脈ト定メタルハ千
 古不易ノ確言ナリ金匱肺痿門ニ數虛ノ脈ヲ舉テ

肺痿ノ脈トス恐クハ太伸此ニ本ツキテ數脈ヲ主
張シタルナルヘシ

勞ノ危篤ナルニ及テ虛火強ク五心煩熱トテ手掌足
掌及胸ノチリチリト云フ程ニ灼熱シ燻ニ水ヲ入
テ握リ或ハ金敷ナトヲ足ニ當テ涼ヲ取ルノアリ
死地ニ近キノ候ナリ

虚勞欬嗽多ク出ル寸ハ鼓膜損傷シテ耳ノ聾ルモノ
アリ

初感冒或ハ寒疝等ノ如ク微惡寒微發熱スルノ荏苒
トシテ日ヲ延キ少シク愈テモ再發シ兎角長クナ

ル者アリ熱ノ醒メタルキハ氣分モ快ク飲食モ格
別ニ減少セス但長引キテ二三月ヲ經テ愈ルモ来
年又發シテ年年癘ニナリ遂ニハ虚勞ニ變スルモ
ノアリ

勞ニ異形ノ蟲ノ有ルノ既ニ十藥神書ニ出テ、人ノ
口實トスルノナレ氏妄誕ニシテ必無キナリ

治法最初欬嗽日夜出テ、感冒ノ如クニ見ユル者ハ
小青龍麻杏甘石合方ニ宜シ長服スルキハ根治セ
ストモ一旦ハ欬ノ止ム者ナリ時ニ往来寒熱欬嗽
氣急脈浮數ニシテ微瘦ノ如ク見ユル者ハ柴胡桂

枝湯ノ證ナリ胸脇掣痛シテ起居ニ氣息ノ閉塞ス
ルホトニ覺ユル者ハ柴胡枳桔湯ニ宜シ肺癰ニ疑
似キ者ナレハ熟察スヘシ儒門事親ニ勞ニ吐法ヲ
行フ一有リ肺病ノ一ナレハ至極面白キ手段ナリ
然レ氏多クハ手後レニナリ疲勞シテ吐劑ヲ投ス
ルノ證ナシ嘗テ胸痛ノ甚シキ者へ吐酒石ヲ用ヒ
テ效ヲ得タル一有リ胸痛喘欬痰多キ者ニハ栝萐
枳實湯竹茹温膽湯ヲ撰用スヘシ又痛處へ發泡膏
ヲ貼シテ可ナリ盜汗ノ多ク出ルニハ柴胡桂枝乾
薑湯奇驗アリ血虛熱多クシテ盜汗ノ出ル者ハ當

歸六黃湯ヲ與フヘシ最初寒熱モ無ク咯血スル者
ハ涼膈散ニ宜シ勞證既ニ備ハリテ日ニ吐血スル
者ハ三黃湯加犀角犀角地黄湯柴胡四物ノ合方ニ
宜シ長ク止サルキハ斷紅飲花蓋石散血石阿芙蓉
液ノ類ヲ撰用スヘシ潮熱盜汗欬嗽脈數等ノ諸證
備ハリタル者ハ緩痰湯解勞散秦芫扶羸湯等ヲ撰
用ス勞ヲ治スルノ良劑ハ此三方ニ過キタルハ無
シ鼈甲ハ勞ノ聖藥ニシテ楊氏家藏方ニ勞ヲ治ス
ルノ方へ多クハ鼈甲ヲ組入タルハ實驗ナルヘシ
勞ヲ患フルモノ鼈ヲ多ク食シテ自ラ愈タル者ア

リ蝦蟆モ亦食用ニスヘシ蝦蟆ヲ食シ疝勞ノ愈ル
 ニテ其效能ヲ知ルヘシ潮熱欬嗽聲啞レ咽乾キ身
 體羸瘦津液枯竭スル者ハ養肺湯ノ主證ナリ又清
 肺湯ニ宜シ前證ノ如クニシテ咽喉微痛白沫ヲ吐
 クト多ク須臾モ唾壺ヲ去ルト能ハサル者ハ麥門
 冬湯或ハ桔梗ヲ加ヘ或ハ瀉白散ヲ合用スヘシ又
 四陰煎甘露飲等ヲ用ユルトアリ疲勞已ニ極テ却
 テ五心煩熱シ舌モ黑胎ニナリテ乾燥シ衣被ヲ退
 ルトヲ欲セサル者アリ是極虛似實ノ證ニシテ所
 謂真寒假熱ナリ竹葉石膏湯ニ宜シ又滋陰降火湯

四モ用ユヘシ勞ヲ患ルト久シクシテ飲食ヲ欲セサ
 ル者ハ補中益氣湯ニ宜シ氣血ノ虛耗シタル者ハ
 人參養榮湯ヲ用ユヘシ又無名異功散ノ如クハ
 機那及ヒ機那鹽ハ勞熱ヲ解シ且身體ヲ強壯ニスル
 者ナリ依ヒ蘭苔モ肺熱ヲ解シ又肺臟ヲ滋養スル者
 ナレハ宜シク間服スヘシ又腹脹滿シテ鼓脹ノ如クニナル者ハ即チ腹脹勞ナリ
 婦人ニ多シ烏苓通氣湯三和散加味胃苓湯柴胡厚
 朴湯ヲ撰用スヘシ腹裏拘急シテ疼痛スル者ハ建
 中湯黃芪建中湯芪歸建中湯ヲ撰用ス

勞ヲ治スルニ獺肝蛤蚧人膽天石等ヲ用ユルコトアリ
 何レモ奇藥ニシテ腸胃ニ慣レヌモノナレハ此等
 ノ藥ヲ服スルハ勞毒驅除セラレテ自ラ分離ス
 ルコト有ルヘシ穀肉菓菜ハ常ニ腸胃ニ慣タル者ユ
 ヘ病ヲ驅ルコト能ハス草根木皮ヲ用ヒテ邪ヲ驅ル
 ニ同シ瘡ノ鼈甲蝮蛇蝦蟆礬石等ヲ用ヒテ斷ルニ
 テ考ルニ勞モ外ヨリ感シタル病ナレハ奇藥ヲ用
 ヒテ效ヲ奏スルコト未必シモ無シト云フヘカラス
 宜ク試用スヘシ
 四花患門ヲ合シテ六花ト名ケ勞瘵ヲ治スル灸ナリ

初日ハ六穴各七壯合セテ四十二壯翌日ハ倍シテ
 八十四壯ニ至リ日ニ倍シテ七日ノ間灸スルヲ定
 法トスレト人ニ由テハ堪カヌル者アリ予カ門ニ
 テハ六穴へ灸スルコトニ三百壯ナリ灸後ニ腹ノ
 微滿スルハ灸效ヲ奏シタルナリ又脊際ノ十六穴
 ハ和法ナレト試ムヘシ

虚勞應用方

瓜蒌枳實湯田春 治痰結咯吐不出胸膈作痛不能轉側
 或痰結胸膈滿悶作寒熱氣急

當歸六分 砂仁各五分 木香各五分 甘草三分

梔子 黃芩 陳皮 木瓜 薑 枳實 桔梗

茯苓 貝母 各一錢

右十二味 生薑水煎 入竹瀝薑汁少許同服

當歸六黃湯 方聖惠 治盜汗之聖藥也

當歸 生地 熟地 黃柏 黃芩 黃芪

黃連 各等分

右七味 水煎服

涼膈散 局方 治大人小兒 腑臟積熱 煩躁多渴 面熱頭昏

舌腫喉閉 目赤鼻衄 額頰結硬 口舌生瘡 痰實不利 涕

唾粘稠 睡卧不安 謔語狂妄 腸胃燥澀 便溺秘結 一切

風應宜服之

大黃 朴消 甘草 各三兩 連翹 二斤 山梔

黃芩 薄荷 各十兩

右七味 煎服 一方有桔梗 宜從

犀角地黄湯 千金 治傷寒及溫病 應發汗而不汗之 內蓄

血者 及鼻衄吐血不盡 內餘瘀血 大便黑 面色黃 消瘀

血方

犀角 一兩 生地黃 八兩 芍藥 三兩

牡丹皮 二兩

右四味 煎服

清肺湯 田春治一切欬嗽上焦痰盛或久嗽不止或勞怯或久嗽聲啞或喉生瘡者是火傷肺金竝宜此湯

桔梗 茯苓 陳皮 桑白 貝母 各一錢 當歸

杏仁 山梔 天門 麥門 各七分 五味 七粒

甘草 三分 黃芩 半錢

右十三味薑棗水煎

養肺湯

袖珍方

治肺萎聲啞咳嗽連綿胸脇掣痛午後寒熱多吐痰沫或咯血羸瘦日甚於一日者

人參 阿膠 桔梗 甘草 五味子 貝母

杏仁 茯苓 桑白 枳實 大棗 柴胡

右十二味煎服

秦艽扶羸湯

楊氏

治肺痿骨蒸已成勞嗽或寒或熱聲啞不出體虛自汗四肢怠惰

秦艽 鼈甲 人參 當歸 半夏 紫苑 各一錢半

甘草 二分 柴胡 一錢 地骨 七分半 烏梅 一箇

右十味薑棗煎服

滋陰降火湯 田春治陰虛火動發熱咳嗽吐痰喘急盜汗

口乾

當歸 一錢二分 白芍 一錢三分 熟芩 天門冬

麥門冬 白朮 各一錢 生芩 八分 陳皮 七分

黃柏炒 知母各五分 甘草五分

右十一味 薑棗煎服

四陰煎景岳全書 此保肺清金之劑 治陰虛勞損 相火熾盛 津

液枯竭 欬嗽吐衄多熱

生地二錢三分 麥門二錢 芍藥 百合

砂仁各二錢 茯苓一錢半

右六味煎服 痰多氣盛 加貝母阿膠天花粉

甘露飲和劑司方 治胃中客熱 牙宣口氣 齒齲腫爛 時出膿血

口舌生瘡 咽喉腫痛 不任涼藥

枇杷葉 熟苧 天門 枳殼 茵陳 生苧

麥門 石斛 甘草 小黃苓各等分 薑棗三升煎至一斗

右十味 水煎服

人參養榮湯和劑司方 治脾肺俱虛 發熱惡寒 四肢倦怠 肌肉

消瘦 面黃短氣 食少作瀉

十全大補湯 加遠志 陳皮 五味子 薑棗

花藥石散十藥神書 治五內崩損 噴血出升斗

花藥石煨存性 研如粉

右以童子小便一鍾 男入酒一半 女入醋一半 煎溫食

後調服三錢 甚者五錢 能使瘀血化為黃水 後以獨參

湯補之

張文仲療骨蒸方 外臺

人頭骨 三大兩 麝香 一兩

右二味搗篩和蜜搗一千杵丸如梧子一服七九日再

服以粥飲送藥

人參蛤蚧散 楊氏 治虛勞欬嗽咯血潮熱盜汗不思飲食

蛤蚧 一對 人參 去蘆 百部 欬冬花 去梗

貝母 去心 紫苑 已上四味 阿膠 蛤粉炒

紫胡 去苗 肉桂 去鹿皮 黃芪 蜜炒 甘草 炙

鼈甲 醋炙 杏仁 湯浸去尖 半夏 生薑汁製已上九味各一分

右件為細末每服三錢水一盞半生薑三片煎至一盞

溫服不拘時候

再春丸 朝鮮人傳方 治勞瘵百證悉具未見下利跗腫者服之

莫不愈者此方除熱救虛不偏補不偏涼諸常有熱漸

見瘦削及婦人蓐勞小兒疳勞等證用之皆驗

黃栢 炒黑 麥門冬 炮 地黃 別研 芍藥

犀角 鎊末各三錢 青皮 陳皮 縮砂 沉香 上好

辰砂 桔梗 莎米 厚朴 薑汁浸炒 蓮肉

乾薑 炒黑 薰陸 芎藭 各二錢 大苗

洋參 各一錢五分 黃連 木香 苦參 各一錢

麝香 二分 真天石 二十錢

右二十四味為末糊丸每服七分一日三度單湯送下

芪歸建中湯 本事 治血氣微少 華青州云治癰疽潰後

膿出多自汗或盜汗日加脫狀者

黃芪建中湯加當歸

瀉白散 直指

桑白 地骨皮 粳米 甘草

右四味煎服

斷紅飲 杉田

大麥 地黃 玫瑰花 甘草

右四味水煎服

柴胡桂枝湯 小青龍麻杏甘石合方 小建中湯

柴胡桂枝乾薑湯 小柴胡湯合四物湯 麥門冬湯

三黃湯加犀角 柴胡枳桔湯 補中益氣湯

竹茹溫膽湯 阿芙蓉液 吐酒石 發泡

四花患門

先定穴令患人平身立正取一細繩蠟之勿令展縮順脚底貼肉堅踏之男左女右其繩前頭與大姆指端齊後頭令當脚根中心向後引繩循脚肚貼肉直上至曲脰中大橫文截斷又令患人解髮分兩邊令見頭縫自顛門平分至腦後乃平身正坐取向所截繩一頭令與

鼻端齊引繩向上正循頭縫至腦後貼肉垂下循脊骨引繩向下至繩盡處當脊骨以墨點記之又取一繩子令患人合口將繩子按於口上兩頭至吻却鉤起繩子中心至鼻柱根下令如入此便齊兩吻截斷將此繩展令直於前來脊骨上墨點處橫量取平勿令高下繩子先中摺當中以墨記之却展開繩子橫量以繩子上墨點正壓脊骨上墨點為正兩頭取平勿令高下於繩子兩頭以白圈記之白圈是灸穴也名曰患門次四穴令其人平身正坐稍縮臂膊取一繩繞項向前雙垂與鳩尾齊鳩尾是心岐骨人有無心岐骨者至從

胸前兩岐骨下量取壹寸即鳩尾也即是雙截斷却皆翻繩頭向項後以繩子中停取心正令當喉嚨結骨上其繩兩頭夾項雙垂循脊骨以墨點記之又取一繩子令其人合口橫量齊兩吻截斷還於脊骨上墨點橫量如法繩子兩頭以白圈記之白圈是灸穴處又以第二次量口吻繩子於第二次雙繩頭盡處墨點上當脊骨直上下豎點令繩中停中心在墨點上於上下繩盡頭以白圈兩穴白圈是灸穴處名曰四花六穴合名六花脊際十六穴

自第七椎至第十四椎俠脊際左右各八穴合十六穴

邦俗名曰楷子灸

此灸法... 凡患此症者... 宜早灸之... 庶幾全愈... 誠良法也... 凡患此症者... 宜早灸之... 庶幾全愈... 誠良法也...

肺痿

肺痿ハ金匱ニ虚勞ノ外ニ別ニ肺痿篇ヲ設ケタルユ
ヘ後世諸家皆之ヲ見テ二病トナシテ論セリ愚按
スルニ肺痿ハ虚勞ノ一證ニシテ別病ニアラス一
ノ癩證モ微シク殊ナル所アルモハ種種ノ名ヲ付
ルト同シ此證喉癰ニ疑似シキ者ナレバ喉癰ハ咽
喉ヨリ起リテ肺ニ浸淫シ肺痿ハ肺ヨリ始リテ咽
喉ヘ波及スルニテ分ツヘシ痿ハ病源ニ萎ニ作リ
テ草木ノ萎^{シホム}ナリ肺痿ハ肺臟ノ萎ミテ運動ヲ失
スルノ意ナリ其證咽喉及唇舌モ乾燥シ聲^カ啞テ發

セス氣息窒塞シテ利セス欬嗽シテ雪ノ如キ白沫
ヲ吐ク一多ク或ハ血線ヲ引キ或ハ胸痛或ハ胸痛
日晡微ニ潮熱シ或ハ盜汗出テ身體羸瘦シテ腹筋
拘急シ脈數ナル者ナリ疲勞極ルニ及テハ咽痛ミ
舌ハ紅軟無津ニナリ鹽味或ハ辛粹ノ物ハ深ミテ
食スル一能ハス少シ觸レテモ血ノ出テソウニ見
ユルモノナリ咽ノ痛ムモ舌ト同様ニナリタルナ
ル可シ諸候虚勞ニ較ルニ大同小異ナレ其病性
及内景ヲ詳ニスルキハ其同病タル一彰然トシテ
明カナリ

咽喉結毒ノ氣道ヘ付タルハ咽痛聲喎呼吸不利咳嗽
出テ、白沫ヲ吐キ肺痿ノヤウニ見ユル者アリ世
醫誤テ肺痿ト為シ徒ニ強陽滋陰ノ劑ヲ與ヘ愈危
篤ニ至ル一有り予此證ヲ診スル毎ニ其虚實ヲ問
ハス唯結毒ヲ目的ニ化毒丸紫雲條ノ類ヲ用ヒテ
回春ノ効ヲ得タル一甚カラス
肺痿ノ治法ハ虚勞門ヲ参考シテ養肺湯清肺湯寧肺
湯麥門冬湯ノ輩ヲ撰用スヘシ

肺痿應用方

寧肺湯 楊氏 治榮衛俱虚發熱自汗肺氣喘急咳嗽痰唾

川芎 當歸 芍藥 熟苜 白朮 甘草

五味 麥門 桑白 茯苓 各五 阿膠 一錢

右十一味薑棗煎服

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

痰飲

痰飲ノ名金匱要略ニ載タレト氏舊淡飲ト書タルヲ後
人シテ去テ疔ヲ加ヘタルナルヘシ利ヲ痢ニ作り
淋ヲ麻ニ作りタルノ類ナリ脈經千金翼等ニハ淡
飲ニ作レリ淡飲及懸飲溢飲支飲伏飲寒飲留飲停
飲畜水等ノ名不ト雖ト氏即チ宿水ノ事ニテ傷寒
論ニ所謂心下有水氣胸下有水氣ト云モノ是ナリ
痰ノ字素問靈樞難經傷寒論等ニ載セス初テ神農
本經ニ出テ、常山ノ條痰血痰癖ノ名アレト蓋シ
淡飲ノ一ナルヘシ名醫別錄ニ冷痰停痰痰熱痰癖

等ノ目ヲ載セ肘後方ニ痰癰ト云ヒ范汪方ニ遊痰
ト云ヒ病源候論ニ熱痰冷痰ト稱シ延年秘録ニ結
痰廣濟方ニ痰積ト云ヒ後漢晉宋隋唐ノ間痰ヲ唱
ルモノ頗ル多シト雖氏今世ニ謂フ所ノ粘痰頑痰
ノ痰ニ非ス愚案スルニ古ハ痰ノ一ヲ唾ト云ヒ沫
ト云ヒ涎ト云テ正名ナシ素問表熱病論曰唾出如
涕又曰欬出青黃涕其形如膿大如彈丸從口中或鼻
中出欬論曰使人多涕唾又曰欬涎靈樞癲狂篇曰嘔
多唾沫傷寒論曰吐涎沫金匱肺痿肺癰篇曰口中有
濁唾涎沫又曰吐濁沫又曰多涎唾又曰唾濁ノ類皆

粘痰頑痰ノ一ナリ痰ヲ粘痰頑痰ノ名ト定メタル
ハ宋ノ楊士瀛ナリ其著直指方ニ曰痰者津液之異
名人之所恃以潤養肢體也曰痰曰涎曰飲又有理一
分殊之別伏於包絡隨氣上浮客肺壅嗽而發動者痰
也聚於脾元隨氣上溢口角流出而不禁者涎也惟飲
者生於胃府為嘔為吐此則胃家之病不可不知夫痰
ハ士瀛カ言ノ如ク本ハ咽喉及食道氣道ノ津液ナ
リ若シ此三部ニ病ヲ生スルハ津液ヲ滲出スル
一多ク遂ニ凝滯シテ痰トナルナリ眼ニ病アルハ
ハ淚多ク出テ膿ノ如ク脂ノ如クナリ口舌ニ瘡

ヲ生スル片ハ涎唾ノ多ク出テ、粘稠スルト同シ
 故ニ欬嗽喘息虚勞肺癰肺痿膈噎胃脘癰喉癰喉痺
 馬脾風ノ類皆痰ヲ生スル一多シ又他臟ノ病ニテ
 モ肺及ヒ咽喉へ波及スル片ハ必ラス痰ヲ生スル
 ナリ咽喉結毒癰癩中風脚氣衝心ノ類是ナリ痰ハ
 先ツ諸病ノ兼證ニシテ本病ニ之ヲ患フル者少シ
 張介賓ノ病生痰痰不生病ト云タルハ千古不易ノ
 確論ナリ朱震亨ハ心得違テ萬病皆痰一屬スト云
 フ説ヲ主張セリ諸家モ亦其説ヲ蹈襲シテ今ハ醫
 俗共ニ肺病ノ虚勞肺痿喘息等ハ勿論頭痛眩運背

痛胸痛ノ類頸項ノ強ルモ膈臂ノ痛モ總テ痰ト為
 シ甚シキハ癰癰乳岩等ノ初發モ痰ト為シテ痰核
 ノ名アリ實ニ無稽ノ臆説ナレト千載ノ舊染ニテ
 今如何ホトニ辨駁スルモ醒悟スル一難シ
 上文ニ述ル通り金匱及隋唐ニ所謂痰飲ハ即チ淡飲
 ニテ宿水ノ一ナリ楊士瀛カ辨スル所ノ痰ハ津液
 ノ凝滯ニテ其物自ラ異ナレト其所在ヲ同フスル
 ヲヘ其證候モ亦同シ故ニ元明ノ頃ニ及テハ相混
 シテ辨別セズ汎ク痰飲ト稱スルノミ吾門飲癖ノ
 病ヲ飲證ト為シ頑痰ノ病ヲ痰證ト云フ

痰證ハ老人及喫烟ヲ嗜ハモノ或ハ鯨飲或ハ常ニ滋
味膏粱ヲ好ハモノニ多シ痰ハ素咽喉及氣道食道
ノ津液ニシテ日ニ新陳交代スル者ナリ人老衰マ
レハ津液交代ノ機關モ自然ト惰リ凝滯シテ痰ト
成ルナリ老人ハ水ノ循環モ惡クナリテ脚ノ腫ル
ルモ此理ニ同シ烟酒膏粱等ハ津液ヲ生ムルト過
多ニシテ津液交代ノ次序ヲ失シ遂ニ凝滯シテ痰
ト成ナリ其證初發ハ痰涎ヲ吐ク一日ニ多ク欬嗽
ヲ發シ欬ノ漸漸ニ強クナルニ從テ聲モ嘎レ喘モ
アリ肺モ微シク損傷スルト見ヘテ胸脇掣痛シテ

欬スル毎ニ難澁スル者ナリ然レハ飲食ニ便常ノ
如ク元氣モ格別ニ惡カラス唯羸瘦シテ病身ニナ
リ諸藥寸効ヲ奏セス毎年冬時嚴寒ニ至レハ大ニ
發シテ喘欬甚シク須臾モ側卧スルヲ得ス倚息
シテ晝夜安眠ノナラヌ程ナレハ春暖ノ候ニ至レ
ハ復微シク愈ヘ或ハ發シ或ハ愈ヘ病ト俱ニ老ル
者多シ此病死スル頃ハ必ラス浮腫スル者ナリ痰
モ病ノ新舊ニテ其形狀ヲ異ニス初吐ク所ノモノ
ハ凝結シテ色淡白ナリ葛粉ヲ煉タルヤツニ見ユ
漸多ク出ルニ及テハ粘膠ニシテ絶ヘス或ハ黄色

ニシテ涕洟ノ如ク或ハ淡黒色ナルモ有リ味或ハ甘或ハ鹹或ハ瘍膿ニ似タル痰ヲ吐ク一モ有レハ肺癰ナラン歟ト狐疑スル一アリ瘍科秘録肺癰門ヲ參攷シテ痰膿ノ差別ヲ審決スヘシ

治法痰ハ藥効ノ見カ子ル者ナレハ食禁ヲ專要トス第一ニ喫烟飲酒及魚鳥膏油鹹シホキ物ヲ嚴禁スヘシ欬嗽スル者ハ小青龍麻杏甘石合方ニテ奇驗アリ喘スル者ハ定喘湯蘇子降氣湯ニ宜シ胸脇掣痛シテ痰ヲ吐ク一多キモノハ柴胡枳桔湯括萎枳實湯竹茹温膽湯ヲ撰用スヘシ或ハ滾痰丸ヲ兼用トス

痰涎胸膈ノ間ニ凝滯シ之ヲ吐ケ尽キス温温トシテ快カラス或ハ嘔シ或ハ眩スル者ニ陳湯枳縮二陳湯ヲ與フヘシ

飲證ハ即チ宿水ニシテ津液ニ非ス心肺ノ外胸肋ノ間ニ瀦溜シ或ハ胸膜ノ裏ニ滿テ膨脹シ或ハ横膈膜ニ入り其水漸漸ニ蓄積スル片ハ心肺及氣道動脈管咽喉等へ波及シテ喘欬氣急等並起テ痰涎白沫ヲ吐キ虚里及心下氣動築築トシテ衣ニ應シ更衣等ニ起片ハ悸動愈高クナリ呼吸促迫シテ言語モナラヌ程ニナリ心下痞鞭シテ常ニ苦ク右脇ノ

下へ塊ヲ結ヒ肋骨ノ下へハ微モ指ヲ容ラレヌヤ
 ウニナリ脈多クハ沉ニシテ面目及雙脚微腫シ漸
 漸ニ小便不利ニナリ遂ニ心腹脹滿一身悉ク腫テ
 衝心スルニ至ル此證酒客ニ多シ故ニ脇下ノ塊ヲ
 飲癖ト云ヒ又酒癖ト云フ此病療治ヲ以テ一旦治
 スル氏心下及脇下ノ塊癖微シク残りテ肋骨ノ中
 ニ伏シ根治セヌモノナリ數月ノ後ニ再發シ或ハ
 數年ノ後ニ再發シ遂ニ鬼簿ヲ免レス

治法第一ニ酒肉ヲ禁シ鹽ヲ斷シ緊要トス脇下ニ飲
 癖ヲ結ヒ喘欬氣急痰沫ヲ吐キ面目及雙脚ノ微腫

スル者ハ木防己去石膏加茯苓芒消湯奇驗アリ此
 一方ニテ此證ヲ救フ少ナカラス嘔吐シテ飲食ヲ
 思ハサル者ハ茯苓飲ニ宜シ飲癖ノ尤大ナル者ハ
 先ツ大陷胸湯ヲ以テ下シ枳朮湯ヲ與フヘシ虚里
 及心下ノ動悸高キモノハ鍼砂湯ニ宜シ腹滿及衝
 心ノ候アラハ脚氣門并ニ水腫門ヲ參攷シテ療治
 スヘシ

痰飲應用方

枳縮二陳湯 回春 治涎在心膈上攻走腰背嘔噦大痛

枳實 砂仁 半夏 陳皮 香附 各一錢 厚朴

茴香

延胡各八分

木香

草薹

乾薑各五分

甘草

三分

右十二味生薑煎服。

二陳湯局方治痰飲為患或嘔吐惡心頭眩心悸或中脘不快。

半夏

橘皮各五兩

茯苓

炙甘

各一兩

右四味生薑七片烏梅一箇煎服。

蘓子降氣湯局方治虛陽上攻氣不升降上盛下虛痰涎壅塞喘促短氣欬嗽者。

蘓子

陳皮

厚朴

前胡

肉桂

各二錢

當歸

三錢

半夏

五錢

甘草

一錢

右八味薑棗煎服。

定喘湯高階治喘急久不愈肌肉削瘦者。

竹葉石膏湯加蘓子桑白皮地骨皮。

鍼砂湯

原氏

治虛悸短氣眩暈虛煩并黃胖。

鍼砂

四分

牡蠣

茯苓

各一分

桂枝

四分

人參

二分

朮

五分

甘草

二分

右七味煎服。

滾痰丸

養生論

治濕熱痰積變生百病。

大黃

黃芩

各八兩

沉香

五錢

青礞石

焰消

各一兩入罐內蓋定鹽泥固濟晒乾火煨紅候冷取出以礫石如金色為度

右為末滴水和丸梧子大茶清或溫水任下四十九

大陷胸湯

茯苓飲

木防已去石膏加茯苓芒硝湯

枳朮湯

小青龍麻杏甘石合方

柴胡枳桔湯

竹茹溫膽湯

括蕒枳實湯

欬嗽

欬嗽ハ病證ニシテ病名ニ非サレトモ或ハ唯欬嗽ノミ

ヲ長ク患ル者アリ因テ此ニ一病トナシテ論ス欬

ハ古ヨリ肺病ト為セトモ特リ肺臟ノミナラス咽喉

及胸膈ノ諸病ハ皆能欬嗽ヲ發ス第一ニ虛勞肺痿

肺癰痰飲喘息喉癰咽喉結毒纏喉風馬脾風ノ類是

ナリ欬ノ出ル所以ハ喉癰ノ涎沫結毒ノ膿血等ハ

氣道ノ中ヘ入ラント欲シ肺痿ノ涎沫肺癰ノ膿血

等ハ氣道ノ外ヘ出ント欲シ同是五軟骨ニ觸レテ

欬ヲ發スルナルヘシ感冒ノ外欬ノ出ル諸病ハ本

病カ難證ユヘ効モ亦愈カタルナリ効ハ常ニ難證
ト心得テ粗末ニス可ラス少壯ノモノ感冒ノ後ニ
續テ効ノ久シク出ル者ハ勞ニ變スルトアリ婦人
産後ニ効ノ連綿トシテ止サルモ亦勞ニナル者ナ
レハ弓斷スヘカラス小兒諸瘡内攻シテ効ノ出ル
トアリ自ラ病狀ヲ告メユヘ初發ハ家人ハ勿論醫
者モ氣カ付カス誤ラ感冒ト為スト有リ常ニ心得
ヘキトナリ小兒ニ百日効ト云フアリ即チ頓嗽ナ
リ天行病ニシテ治シ難キ者ナリ詳ナルトハ小兒
門ニ載ス

治法虚勞肺痿肺癰痰飲喘急等ノ効嗽ハ各病ノ門ニ
就テ治法ヲ撰用スヘシ痰飲ニモ非ス虚勞ニモ非
スシテ効ノ長ク止マサルハ猶實スル者ハ小青龍
麻杏甘石合方神驗アリ華蓋散モ亦奇効アリ又苓
甘薑味辛夏仁湯ヲ用フヘシ又寧嗽膏ヲ兼用トス
既ニ虚スル者ハ麥門冬湯清肺湯寧肺湯養肺湯ノ
輩ヲ撰用スヘシ又阿芙蓉液及肺癰湯ニテ奇驗ヲ
得タルトアリ宜ク試用スヘシ

効嗽應用方

華蓋散 和劑局方 治感寒邪効嗽上氣聲重鼻塞呀呷有聲

內科和經 卷二
蘧子 茯苓 桑白 陳皮 杏仁 麻黃 各一兩
甘草 二錢

右七味煎服。

寧嗽膏 官秘 治咳嗽。

薄荷 一錢 桔梗 三錢 冰糖 二錢 乾薑 一錢

紫蘧子 二錢

右五味煉蜜為膏白湯送下。

肺癰湯 原氏 治欬唾腥臭口吐膿或如米粒胸肋間隱痛或徹背聲枯氣急不能卧者。

國老 桔梗 各六分 貝母 括萎根 各五分

杏仁 四分 白芥子 三分 生薑 二分

右七味煎服。

乾薑散 聖惠 治氣嗽短氣。

乾薑 桂心 款冬 各半 細辛 白朮 甘草

木香 五味 各三分 附子 一兩 大棗 二枚

右十味水煎服。

貝母湯 本事 治諸嗽久不差者。

貝母 黃芩 乾薑 陳皮 五味 各一兩 桑白

半夏 柴胡 桂枝 各半 木香 一分

甘草 一分 杏仁 七箇

右十二味生薑七片水煎

麥門冬湯

苓甘薑味辛夏仁湯

木香

一分

小青龍麻杏甘石合方

寧肺湯

養肺湯

桑白

清肺湯

阿芙蓉液

八不表

內科秘錄卷之六

白芥子 三分

生薑 二分

